

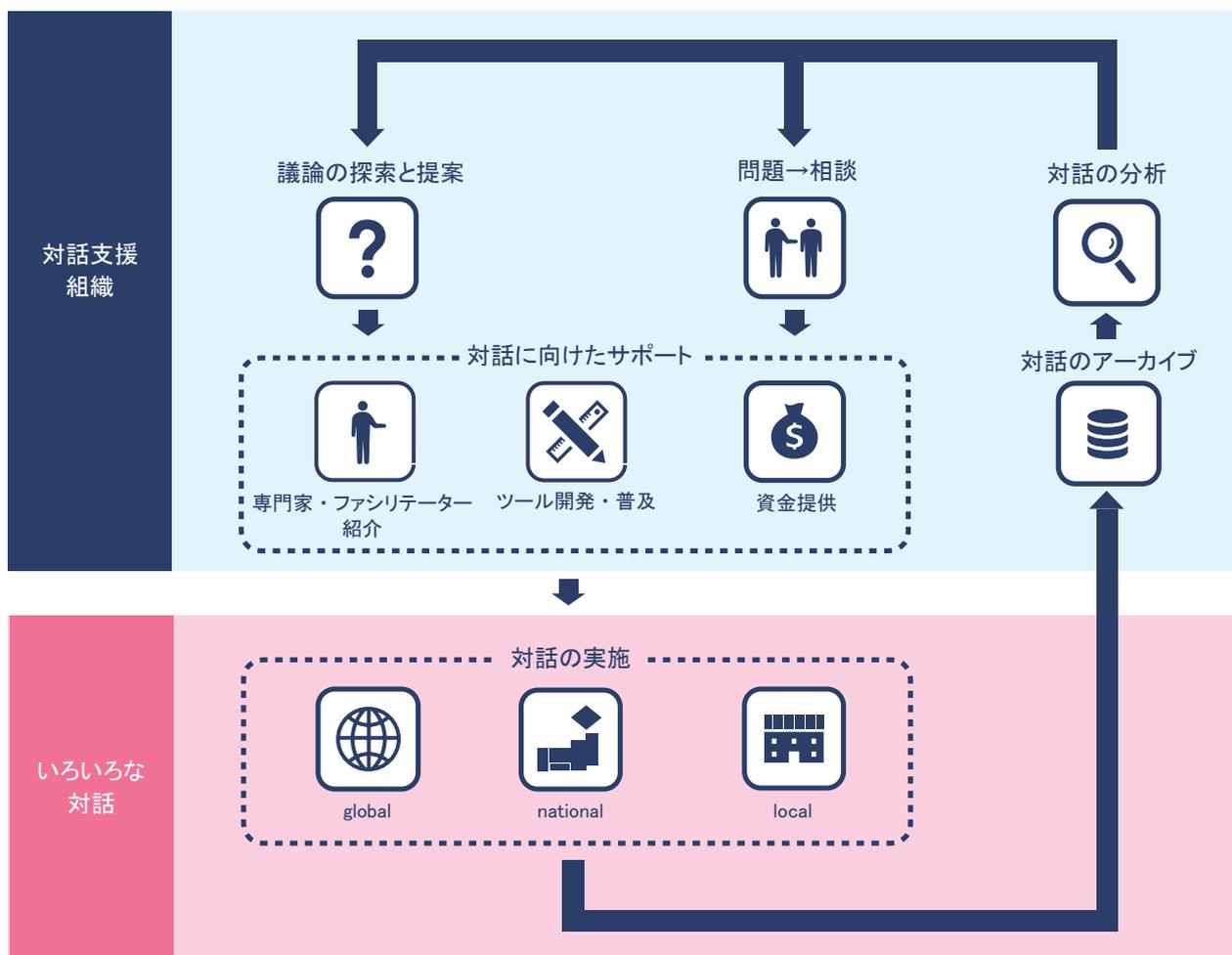
(3) 対話システム

ひとつひとつの対話の場は、その場をつくる人々、そこに参加する人々にとってかけがえのない、大切な場です。対話から生まれたメッセージを誰かに届けたり、参加者が自ら行動を起こしたりすることによって、現実の問題解決につながります。

しかし、それだけではありません。対話は、地球規模

課題から、政策、地域の問題までさまざまなレベルで行われています。

社会の中で対話すべき議題とは何かを広く提示したり、対話の実施を支援したり、対話を記録して分析し提言につなげたりするといった、社会で行われる対話をひとつのエコシステムとして捉えれば、個々の対話を超えて大



きな力を生み出すことができるでしょう。

このような対話のエコシステムを醸成するにはどうすればよいでしょうか。ここでは、英国のサイエンスワイズ事業を参考に、対話支援組織を活用した対話システムのあり方をご紹介します。

サイエンスワイズ事業とは

2007年に、ビジネス・イノベーション・技能省(BIS)の支援により、サイエンスワイズ事業：科学とイノベーションにおける公衆対話専門家センター(Sciencewise-ERC: Sciencewise Expert Resource Centre for Public Dialogue in Science and Innovation)が創設された。これは、科学技術の社会への影響に関して、専門家から成るチームを整備し、政策立案者などに対して様々な情報・助言・ガイダンスなどを提供する機関である。政策立案者が公衆の視点や関心を理解し、公衆との対話を促進することを助けている。(「平成23年版科学技術白書」)

